

告示	番号	12	内分泌疾患
	疾病名	副腎腺腫	

副腎腺腫

ふくじんせんしゅ

概念・定義

高コルチゾール血症にともない、糖代謝、脂質代謝、循環の異常、蛋白異化、免疫力低下をきたす状態がクッシング症候群である。クッシング症候群は副腎腺腫、副腎皮質癌、副腎過形成からの自律性コルチゾール分泌を原因とする ACTH 非依存性と ACTH 産生下垂体腺腫や異所性 ACTH 産生腺腫を原因とする ACTH 依存性に分類される。

副腎腺腫による自律性コルチゾール分泌によるものが本症である。

症状

満月様顔貌、中心性肥満または水牛様脂肪沈着、皮膚の伸展性赤紫色皮膚線条（幅 1 cm 以上）、皮膚のひ薄化および皮下溢血、近位筋萎縮による筋力低下、小児における肥満をともなった成長遅延などがある。非特異的症候として高血圧、月経異常、座蒼（にきび）、多毛、浮腫、耐糖能異常、骨粗鬆症、色素沈着、精神異常がある。診断についてはクッシング病の診断ガイドラインを参考にする。

副腎腺腫、癌腫の場合、副腎アンドロゲンの自律分泌を認める場合には、男児における思春期早発症、女児における男性化を示すことがある。

片側性副腎皮質腺腫または癌腫の場合、対側の健常副腎は ACTH 抑制のため、萎縮して見えることが多い。副腎腺腫では脂肪成分が多く、典型例では非造影 CT では 10HU 未満の低吸収値を示す。

治療

副腎摘出により治療が可能である。手術不能例ではステロイド合成阻害薬または両側副腎摘出を考慮する。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/5_18_35.html